



SOCIAL
MASTER
SCHOOL

生涯現役

北九州市
生涯現役
夢追塾

北九州市
生涯現役
夢追塾

18
期生



www.facebook.com/yumeoijuku/

夢追塾ホームページ www.yumeoi.org/

お問い合わせ先

北九州市生涯現役夢追塾 事務局 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7 (NPO法人 里山を考える会 内)
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:info@yumeoi.org

※「生涯現役夢追塾」は、北九州市より指定管理者の指定を受け、「北九州市社会福祉協議会・里山を考える会 共同事業体」が運営を行っています。

これからの 夢追塾に 期待すること

生涯現役 夢追塾
名誉塾長
武内 和久



生涯現役夢追塾は、夢や志のある50歳以上の方々が経験を生かし、生涯現役で活躍されることを目指し、平成18年度に開塾しました。塾生の皆様は、カリキュラムを通して知識や経験を深め、塾生同士や先生方、卒業生とも積極的に交流し、幅広いネットワークを構築されています。

また、北九州市立大学の学生との交流は、新たな視点や刺激を得る好機となったことと思います。

今後、皆様には年齢に関係なく、様々なことに挑戦し続ける「生涯現役社会」をリードするアクティブシニアとして、地域での活躍を期待しています。

私が北九州市長に就任して1年が経ちますが、北九州市の持つ強みや誇り、まちの歴史、市民の気質等から、人とのつながり、熱い情熱、ものづくりや環境の技術力を再認識しています。これらの北九州市のポテンシャルを最大限に活かし、「つながりと情熱と技術で、『二歩先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市・北九州市」を目指します。

皆様の挑戦やご活躍は、地域や経済を活性化し、北九州市の成長へと繋がります。今後も皆様の熱い「北九州愛」によるお力添えをよろしくお願いいたします。

最後になりますが、皆様の今後ますますのご活躍を祈念するとともに、生涯現役夢追塾を支えていただいている関係の皆様にも深く感謝し、挨拶とさせていただきます。

すでに突入している長寿社会においては、仕事や家庭だけでなく、自分たちの住まう地域社会で市民一人一人が役割を持ち、活動していくことが必要とされています。

特にシニア世代は、本人も気づいていない様々な資源を持っており、それらを地域で活用することが期待されています。

生涯現役夢追塾ではそんなシニア世代がこれまでにない学び方で、自分の資源価値に気づき、同じ志を持つ仲間を作り、地域で夢を実現させることをミッションにしています。

シニア世代がいきいきと夢を実現し、社会に貢献していくことが、長寿社会をよりよい世界に導くことにつながると信じています。

夢追塾のミッション



18期生 Interview

最初は入る気がなかったが塾のスタッフに背中を押され入塾を決めた。今まで商売の経験はあるものの、73歳で初対面の人たちと交流したり周りと馴染んだりできる不安だった。戸惑いもあったが、他の塾生やスタッフからアドバイスされながらやっていくうちに楽しさや面白さが芽生え、気づけば一気に仲良くなっていた。歳を重ねるにつれ、議論の際に誰かと本気でぶつかったり話し合うといったこともなくなり、しようがないとあきらめていた。しかし夢追塾の年

齢を気にしないフラットな関係の中でひとつのことに自由に意見し合い、指摘されても前向きに進んでいく他の塾生を見て自分も本音でぶつからないといけないと思った。互いに知恵を出し合い試行錯誤していくことの大切さを学び、人を思い助ける気持ち、「人間愛」を感じた。現在は「枝光商店街を元気にしよう」というテーマに取り組み、少しでも自分たちに協力できることはないかと考えている。

生涯現役夢追塾 18期生

- 大庭逸司 おおば いつじ
- 甲斐裕美 かい ひろみ
- 岡本哲也 おかもと てるや
- 菅正司 かん しょうじ
- 桑村美伎 くわむら みき
- 西條幸範 さいじょう ゆきのり
- 櫻井幸恵 さくらい ゆきえ
- 田崎圭子 たざき けいこ
- 古庄弘一 ふるしよう ひろいち
- 了戒恵理子 りょうかい えりこ

北九州市立大学経済学部 松永ゼミ

- 元藤彩羽 もとふじ いろは
- 田村明日香 たむら あすか
- 白石真帆 しろいしまほ
- 三浦明日香 みうら あすか
- 横山蒼 よこやま そう
- 新屋花奈 しんや かな
- 上川優萌 かみかわ ゆめ
- 佐々木僚 ささき りょう
- 山根瑞紀 やまね みずき
- 鴛海仁花 おしうみ にか

チームで

取組むからこそ

感じる、

「人間愛」

おおば いつじ
大庭逸司さん



もとふじいろは
インタビュー／元藤彩羽
(北九州市立大学経済学部3年生)

大庭さんへのインタビューを通じて仲間と前に進んでいくことの大切さを学んだ。一人では成し得ないこともチームで取組むことで、プロジェクトの強みや弱みを理解し、支え合いながら創り上げていく。そんな膝を突き合わせて議論し合う塾生たちの姿が強く印象に残り、困難な壁を目の当たりしても本音で向き合うことのできるチームを目指したいと感じた。私も挑戦を恐れず、何事も前向きに取り組んでいきたい。

12年前からミュージックバーを経営し、町おこしの一環としてディスコバンドを結成してライブをしていた甲斐さん。ライブ中の盛り上がりや日常的にも作りたいと考えていたときに事務局の方から話を聞き入塾を決意した。夢追塾では、様々なアイデアに対して否定せず一度受け入れてからみんなを決めていくこと、ただ意見をするのでなくコーチングの視点が大切だと学んだ。志が一緒の人という心地よさを実感し、卒塾してからも目標に向かって他の塾生と交流し

ていることが楽しいという。甲斐さんはこれからの目標として、「八幡東区は鉄の街」ということをブルースをテーマに若い人にも伝えていきたいと考えている。「楽しいところに人は集まる」という信念のもと目標に向かって頑張っていきたいと語る。鉄の街ならではの文化、昔ながらの文化を若い人たちと手を組んで幅広い世代に広げていく。音楽のあふれた楽しいまちづくりが楽しみである。

街を盛り上げるために自分ができることを考えて行動し続け、新たな仲間と目標に向かって進んでいく姿は素晴らしく、インタビュア中ずっと甲斐さんの熱い想いを感じる事ができた。そして「全部しないといけない」とは無い。できる人ができることを頑張ることがチームワークであり仲間づくりなんだと知った」という言葉が印象的だった。これからお互いに、できることを頼りにしあえるような仲間づくりをしていきたいと感じた。

たむらあすか
インタビュアー／田村 明日香
(北九州市立大学経済学部3年生)



ブルース魂で まちおこしを

かいひろみ
甲斐 裕美さん



会社の上司に「シニア世代の人材育成の一環として、若い世代に学んだことを共有してほしい」と案内され、この夢追塾に参加した岡本さん。これまで人との接点は会社内ではなかったが、入塾したことによって、これまで関わりがなかった異なる業種で働く人や専業主婦の方たちなどと一緒に活動する機会を得て、考え方や見方が広がったと話していた。岡本さんは、若い世代の人たちに「会社の取引先だけではなく、色んな人と会話して欲しい。自分のやりたいと思っ

たことは口に出すことが大切であり、悩みを抱え込まず相談相手がいるなら誰かに打ちあけることが大切。」と伝えたいそう。これからは、岡本さん自身が大好きな北九州市を多くの人に好きになってもらい、北九州市の都会と自然が両立しているところや特色ある食文化や歴史を伝えていく活動をしていきたいという。夢追塾で出会った仲間たちとの縁をこれからも絶やさず生きていきたいと話す。

「仲間」という単語がインタビュー内で何度もでてきたことがとても印象的だった。夢追塾に入塾したことによってできた新たな仲間の存在が岡本さんの支えになっていたことがよくわかった。私も考え方や見方を広げるために、今まで関わってきたことのないような人たちとの接点が欲しくなった。何かの課題を解決する際には、関わる人の発言を否定せずしっかりと受け止め、現実的な戦略を立てることが大切であると教えていただいた。

しろいしまは
インタビュアー／白石 真帆
(北九州市立大学経済学部3年生)



新たな出会いが 広げる視野、 つながる未来

おかもとつや
岡本 哲也さん



菅さんは定年退職後、完全に燃え尽き、何をするにも気力がなくなりました。しかしその後夢追塾を知り、新しい自分の発見やそこできると新たなつながりを求めて入塾を決めた。塾での大きな学びは、様々な考え方を知れたことだという。塾生同士に縦の関係はなく、全員が横並びになっている。しかし横並びの中でもそれぞれの個性が目立つ。思いもよらない意見や考えを持つ人たちがすぐ隣にいることは非常に面白く、互いに感化し合う関係となれたという。またプロジェクト

トではメンバーが4人と通常より少ない人数であったが、それを逆手に取り、より固く結束して取り組むことができたようだ。周りを巻き込みながら行動するパワフルなリーダーに感化されて、この4人で商店街の人たちや大学生などを巻き込んだプロジェクトを完成させようと現在動いている。すぐに燃え尽きてしまう短距離走にならないように、遠くまで視野に入れて取り組むことを意識しているという。

今からでも遅くない

かんしょうじ
菅 正司さん



入塾のきっかけは1年前に夢追塾のOBからの勧誘だった。はじめは自分には敷居が高いと感じ、現状の生活に不満もなかったため断った。しかし、心のどこかに社会貢献をしたいという思いがあり、偶然1年後にも勧誘を受けたことで縁を感じ、結果的に1年考え入塾を決めた。入塾してからの活動では、他の塾生とともに仲良くなったこと、家に閉じこもっていたらできない活動ができたことにとっても満足しているという。また、自分の思っていることやチームで企

画したことを形にして実現できるような「夢追いメソッド」のプロセスにとっても魅力を感じている。夢追塾の良さは、全員が主体的に自分から発言や行動をしていて、それぞれ違った個性を持った人たちがひとつのチームとして協力できることだと語る。「夢追塾は私利私欲なく、誰かのために活動したいという人が集まり本音で語り合える場所」だと語る桑村さんのこれからの活躍が楽しみだ。

仲間と共に夢を形に

くわむらみき
桑村 美伎さん



「今からでも遅くない」という菅さんの言葉に胸を打たれた。新しいことに挑戦することに年齢は関係ないということを実感し、周りの人たちに入塾を勧めているそうだ。私はまだ社会に出ておらず未熟で、何をしたらいいのかわからない時がある。しかし、少しでもやりたいと思っただと学んだ。私も菅さんのように自分の想いに忠実に、思い立ったら行動する勇気をもって人生を送りたい。

みうらあすか
インタビュアー／三浦 明日香
(北九州市立大学経済学部3年生)



今回のインタビュアを通して、自分の思いを伝える人の思いを聞き、本音で語り合うことの大切さを強く感じた。違う考えを持った人と語り合うことで一人では出てこなかった意見や新しい考え方を見つけることができるのだと思った。社会貢献をするために入塾し、真剣に実現に向けて語り合える場所があり、そういう場所ので本気で頑張ろうという思いを持っている人の話を聞けて、今後の自分の人生にも活かせる部分がとても多かった。

よこやまそう
インタビュアー／横山 蒼
(北九州市立大学経済学部3年生)



勤めている会社に後押しされて夢追塾に入ることを決めた西條さん。仕事との両立ができるの不安に感じていたが、人生経験豊富な講師の方や、意見を絶対否定しない仲間たちが温かく迎えてくれたおかげで、自分の思っていることを素直に表現する力が身に付き、10カ月間楽しく活動することができたという。若松で育った西條さんは、北九州市が持つ沢山の魅力をまだまだ伝えきれていないことに悔しさを抱いていた。「歴史を通じて北九州市を元気にする

こと」が今後の目標だという。関西で暮らしていた際に彦根城や永観堂などの歴史的建造物に数多く訪れたが、その時の感動を忘れられずにいる。この感動を北九州市の活性化に繋げることはできないかと考え、今、北九州市の歴史を仲間と共に学ぶという新しい取り組みを始めている。西條さんは、北九州市の歴史にまつわる史跡を巡る企画や新たな仲間との交流を楽しみにしており、期待に胸を膨らませている。

「人との出会いは財産」という西條さんの言葉が強く印象に残っている。私自身、夢追塾に参加する度記憶に残るのは、塾生同士が生き生きと笑顔で楽しそうに話している姿である。年齢や性別関係なくあだ名で呼びあったり、互いの夢に共感し応援しあったりという光景は私にとって衝撃的で、素敵な空間だと心から感じた。私も西條さんのように、同じ志を持った、仲間というかけがえのない財産を増やし、豊かな人生を歩んでいきたい。

インタビュー／新屋 花奈
（北九州市立大学経済学部3年生）



史跡巡りで 起こす奇跡

さいじょうゆきのり
西條 幸範さん

勤めていた会社を早期退職した櫻井さん。その会社の上司が夢追塾のコーディネーターで、よく声を掛けてもらっていた。退職を決め、これからの生き方を考えた時、地域や社会のこと、北九州市のことを知りたいと思い、入塾を決めた。「あつという間で凄く楽しかった」と活動を思い返す。入ってしばらくは続けられるか不安だったが、他の塾生の前向きな姿に勇気づけられていた。その姿を見て、最初はできないと考えていたことでも、できるかもしれないと考えられるように

なった。櫻井さんの「北九州市の歴史を紐解く」というチーム活動は始まったばかりだ。この活動で大切にしていることは、例えば、歴史と食文化のように、歴史を異なる視点と組み合わせること。歴史だけでは興味を持たない人がいるという考えからだ。櫻井さんは今後、この活動を通して、自分がやりたいことや、楽しいと思えることを見つけていきたいと語る。



“できない”で 終わらせない

さくらいゆきえ
櫻井 幸恵さん

夢追塾での活動を振り返る櫻井さんの明るく楽しげな姿が素敵だった。塾生の方々の、「こうしたい」「こうなりたい」という強い思いを肌で感じた。その成したいことに対して、チームとして取り組む難しさはもちろんあるだろう。だが、他者と関わり合うことで、自分が持たない知識や感覚を受け取り、できることがさらに増える様子が伝わった。一人では実現が難しいことも、仲間となら可能になることを学ぶことができた。

インタビュー／上川 優萌
（北九州市立大学経済学部3年生）



田崎さんは、子どもの独立をきっかけに生まれ故郷の北九州に戻ってきた。さてここからどう過ごそうかといったときに、会社員時代の同僚に勧められ夢追塾への入塾を決めた。早いうちに退職したのもあり、夢追塾では久しく忘れていた「学ぶことの大切さ」、「仲間と協力して何かを創り上げること」の楽しさを思い出し、充実感を得ることができたという。話し合いを続けていくなかで、前向きな思考、様々な人の意見を聴くことでの視野の広さを得たと語る。卒塾後は

夢追塾で学んだ知識や培った能力を活かして立ち上げた地域貢献のプロジェクトを地道に続けながら、それ以外にも趣味などの人生を楽しむものを見つけていきたいと話す田崎さん。若者には「何事も前向きに、興味のあることには積極性を持って、失敗を恐れずに挑戦し続けてほしい」という。今の田崎さんの姿がまさにそれを体現している。

インタビューを通して、向上心を持つことの大切さを学んだ。田崎さんは常に学び続けている。そして、プロジェクトを進めていくうえでの変容にも楽しさを感じている。成長を続ける喜びは向上心の源であり、それはたがび消極的になってしまいう今の私に必要なことなのではないか、と考えた。そして、私たち若者への伝えたいことを聞いて、学び続ける姿勢のカッコよさに魅せられ、失敗を恐れない気持ちを持つとうと思えた。

インタビュアー／佐々木 僚 ささきりょう
(北九州市立大学経済学部3年生)



たがきけいこ
田崎 圭子さん

セカンドライフを 有意義に

60歳まで働き、退職後、市民センターで5年間館長を務めた古庄弘一さん。その後も地域貢献を続けたいと思い、そして社会とのつながりをつくりたいと思い、入塾した。夢追塾では今までやってきたことを理論的に体系づけ整理することのできたと語る。古庄さんは、自分ができることがある間は生涯現役で活動したいと思っている。振り返ってみれば、会社は数字や理屈で動く場所だった。しかし「地域のつながり」を生み出すのは理屈ではなく、人々の共感した感情が必

要であるということを学んだという。夢追塾での成果を活かし、10月に小倉で歴史講座を開催する予定で、その広報の方法について試行錯誤する毎日だ。このイベントを軌道に乗せ、さらなる展開として、単なる歴史講座にとどまらない、街歩きや食に関することを組み合わせたいイベントを開催し、リピーターを増やしていきたいと意気込んでいる。

何歳になっても自分自身で学び続ける機会を設けてくれる夢追塾という場はとても魅力的だと感じた。名前も顔も知らない塾生二人一人が集まり、一丸となつてプロジェクトを完成させるということはとても素晴らしいことだと思ふ。古庄さんの生涯現役で活動したいという気持ちはとても心に響いた。活動すること、そして続けることが自分自身を成長させるものの根本なのだと感じた。

インタビュアー／山根 瑞紀 やまねみずき
(北九州市立大学経済学部3年生)



社会と つながり続ける 生き方

ふるしょうひろいち
古庄 弘一さん



18期生の思い出



了戒さんの夢は、地域社会における結束や共感の輪を広げることにある。了戒さんは自らの想いである「人々の気持ちの拠り所や居場所を作りたい」という夢を実現するため、夢追塾に入塾した。夢追塾に参加する前は個人としての考え方や活動に慣れていたが、そこでチームでの活動の難しさや協力の重要性を学んだという。了戒さんは継続してより良いものを作っていくために、一つ一つ行動を起こし、継続していくことが大切だと

語る。夢追塾で得た知識や自身の介護福祉士としての経験を活かし、人と人の繋がりを深めるために様々な活動に取り組んでいる。その一環としてコミュニティカフェの運営を行っている。この場所を通じて人々が集い、交流し、共に成長できる機会を提供している。了戒さんの夢は、単なる個人の願望にとどまらない。それは地域全体の発展や結束の促進に結びつく。了戒さんの夢は地域の未来へとつながる。

結束の輪を

広げる、

地域の夢追人

りょうかいえりこ
了戒 恵理子さん



雨宮 隆



村岡 純



小田 修司



下田 良雄

コーディネーター



おしうみにか
インタビュアー／駕海 仁花
(北九州市立大学経済学部3年生)

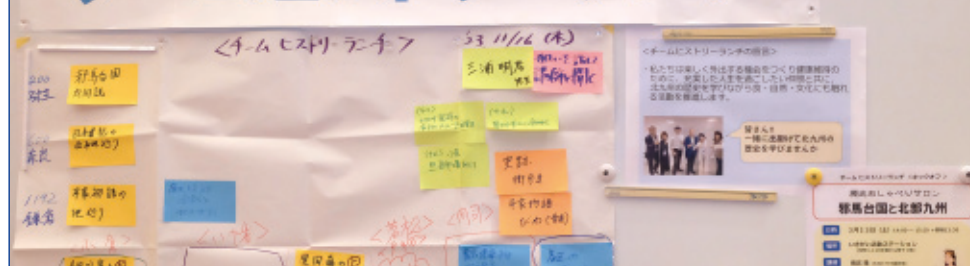
了戒さんのインタビューを通して、人々の結束や共感の輪を広げるために既に行動されていることや、夢を持つことで生まれる力を知ることができた。一方で、夢追塾を通じて、個人の夢や目標を実現することの困難さや重要性を学んだ。失敗してしまったとしても自分の頭で考え抜き、行動してみるということが大切だと感じた。私自身もこれから社会人になるにあたって、見習っていききたい姿勢だと感じた。

ヒストリーランチ

チームメンバー	古庄弘一、岡本哲也、西條幸範 櫻井幸恵、田崎圭子、了戒恵理子
共有目的	楽しく外出する機会をつくり健康維持のために、充実した人生を過ごしたい仲間と共に、北九州の歴史を学びながら食・自然・文化に触れる活動を推進する
戦略的ゴール	より多くの方が郷土の魅力を知りながら、楽しく外出し、健康を維持できるまちづくり
オーガナイズ・センテンス	私たちは楽しく外出する機会をつくり健康維持のために、充実した人生を過ごしたい仲間と共に、北九州の歴史を学びながら食・自然・文化にも触れる活動をするので、2024年10月5日に、第一回歴史講座+aイベントを40名の参加者に開催します。

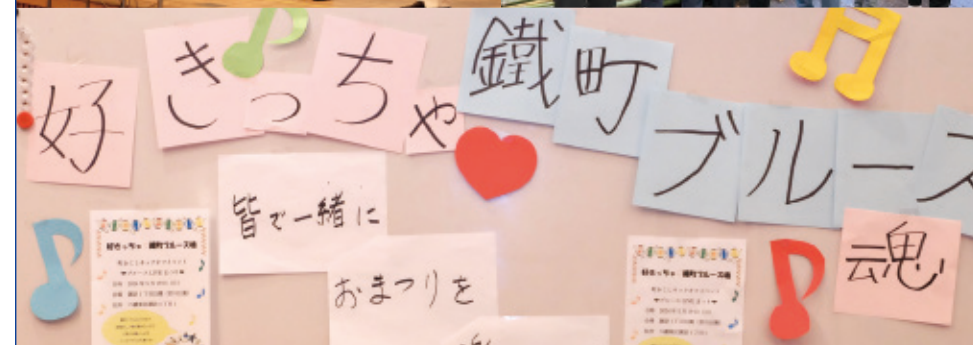


チームヒストリーランチ



好きっちゃ♡鐵町ブルース魂

チームメンバー	甲斐裕美、大庭逸司、菅正司、桑村美伎
共有目的	笑顔と音楽があふれる町づくりのために、商店街店主・音楽仲間・町内関係者・地域住民・学生などと共に定期的なライブ活動をする
戦略的ゴール	枝光本町商店街の中に仲間が集まる場所をつくる
オーガナイズ・センテンス	私たちは八幡地区の賑わいを取り戻すために、商店主、音楽仲間、学校、自治体、若者、学生などを仲間（オーガナイズ）し、枝光地区でブルースを中心とした音楽ライブを開催することで2024年10月までに笑顔のまちづくりのための仲間が集う場所づくりを達成します。



サンクコストの罠から脱出しよう

松永 裕己
北九州市立大学 マネジメント研究科

経済学には「サンクコスト」（埋没費用）という概念があります。事業を中止しても回収できない、それまでに投資した費用を指します。例えば、郊外まで道路を延ばすために用地買収したけれど、建設に時間がかかっている間に人口減少の時代になり新しい道路は必要なくなった場合、用地買収にかかった費用はサンクコストになります。このサンクコスト、我々の意思決定に大きな影響を与えるとされています。簡単に言うと、それまで投資した費用や時間が



もったいなく感じられて、無駄だとわかっていても事業を止めないということが起こりやすいのです。個人の生活でもありますよね。スーパーの見切り品の惣菜買わずに、お腹苦しいのにもつたいないからと食べ切っちゃうとか。映画館で寝ちゃうほど退屈な駄作に当たってしまったのに料金払ったからと我慢して最後まで見ちゃうとか。両方とも、止めなかったせいでさらなる費用がかかる（お腹こわすとか太るとか、最後まで見た時間が無駄とか）のにサンクコストにとらわれて判断を誤ってしまう。

人生においては、歳を取るにしたがってこのサンクコストにとらわれることが増える気がします。例えば勉強のやり方、仕事の覚え方、人付き合いの仕方などなど、30年前と今ではずいぶん違います。思

わず「最近の若者は」とか「俺らのころは」と言いたくなる人も多いでしょう。私もなります。これ、サンクコストの罠にはまっているのかもしれない。新しいやり方が出てきたときにそれを否定したくなるのは、自分のやり方で身につけてきたものやそれにかかった時間と労力（費用）を否定されている気になるからです。

夢追塾は、サンクコストの罠を壊してくれる場所かもしれません。今まで費やしてきた時間や手間や費用に無意識のうちに拘っていた自分を捨て、新たなやり方に出会いリセットして再出発できる機会を提供してくれるのが夢追塾です。18期のみなさんの生き生きとした表情を見ているとそんな感じがします。過去にとらわれず未来に生きる。卒業生のみなさんのますますのご活躍をお祈りいたします。



背中を見る人プロジェクト紹介

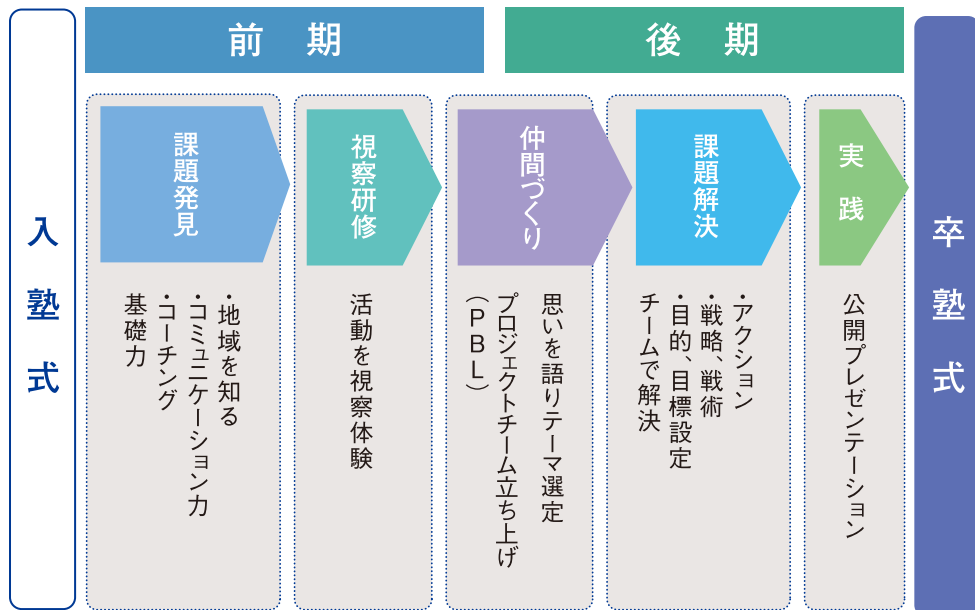
我々、北九州市立大学経済学部松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾に参加しました。時にはみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、時には一対一で対話をし、時には発表に対するフィードバックを行いました。また、課程修了後には、夢追塾で学んだことやこれからの夢について塾生にインタビューを行い、記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきたように思います。企画し実践することも学びです。観察することも学びです。世帯を越えて対話することも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見てきた学生から見た塾生の姿をお伝えしたいと思います。

北九州市立大学 経済学部
松永ゼミ生一同

令和5年度 夢追い人

講師(敬称略)	実績
蒔田加代	学園&地域交流ネットワーク 副代表
古賀厚志	北九州市立松本清張記念館 館長
岩田智子	日本舞踊名取 英 聖幻
常光孝一	80歳からの合唱団 代表
池田毅	若松いきいきクラブ 代表
山口典浩	社会起業大学・九州校 校長
齋藤貞之	NPO法人夢追いサポートセンター 理事長

6月 7月 9月 10月 2月 3月



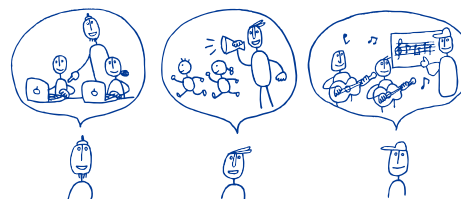
入塾対象者	概ね50歳以上で市内に在住する方もしくは、市内に勤務している(していた)方
受講期間	6月～翌年3月
定員	40名目安(書類審査と面接による選考があります)
受講料	年間5万円
講座会場	<ul style="list-style-type: none"> ●いきがい活動ステーション(小倉北区魚町) ●八幡西生涯学習総合センター(八幡西区黒崎) ●ユースステーション(八幡西区黒崎) ●アジア太平洋インポートマート(小倉北区浅野) 他

楽しく、互いに、体験から学ぶ

夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、熱い思いを持った仲間と交流を深める場でもあります。仲間と楽しみながら取り組むことで学びが深まる。ここが魅力です。

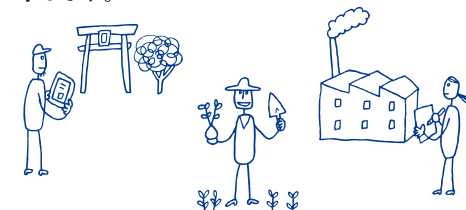
POINT 1 自分を活かしてお役に立つ

これまで職場や趣味で培ってきた**知識や経験**、ネットワークなどの能力を地域で役立てます。



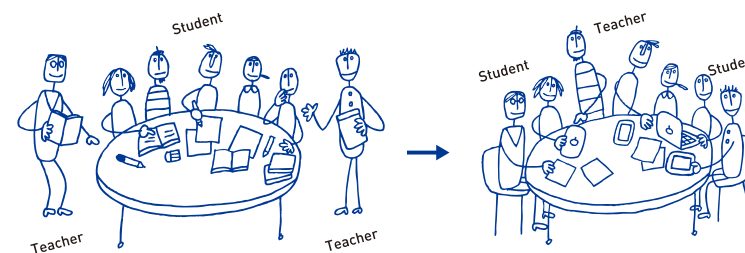
POINT 2 体験から学ぶ

現場におもむいて調査・研究を行ったり、地域で活躍している団体の活動を実際に**体験**しながら学びます。



POINT 3 塾生同士で学び合う

年齢、肩書きにかかわらず、塾生同士がフラットな立場で**互いに学び合う**仕組みがあります。



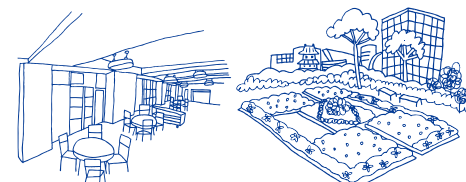
POINT 4 若者と互いに学び合う

大学生などの**多世代**にも関わってもらい、違う感性から得られる「気づき」や「発見」を大事にします。



POINT 5 まち全体がキャンパス

夢追塾は**まち全体**が学び舎です。北九州市内のさまざまな施設を活用し、多様な学びの場を提供します。



楽しみながら地域で活躍!!



夢追塾9期生
岩田 智子さん

舞踊の指導経験を障がいの有無、国籍に関わらず、誰もが輪をつくり笑顔で生活できる社会を目指しています。今後は「健康舞踊塾」を立ち上げ元気な北九州市民を増やしたいと夢見ています。

共に楽しむ



夢追塾2期生
常光 孝一さん

仲間と共に次々にイベントを企画
自分のやりたいことは何だろうかと入塾しました。塾の仲間とは、ウォーキング大会・はしご酒大会・笑いヨガクラブ・80歳からの合唱団北九州等を企画運営しながら生涯現役で楽しんでいます。



夢追塾15期生
福永 和子さん

夢追塾で学んだコミュニケーションオーガナイズングで多くの仲間が出来、輝くシンシニアのファッションショーを多くの仲間のおもちよりで開催。

夢追塾メソッド 実践中!



夢追塾9期生
楠 稔幸さん

誰もが気軽に立ち寄れる縁側カフェをオープン
塾で学んだ「仲間づくり」の方法で「若松TERAKOYAプロジェクト」を立ち上げました。地域の方に仲間になってもいい、大きなチカラをいただきたい、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。



夢追塾17期生
宮地 弘行さん

夢追塾は多様な考え方の仲間たちと議論を交わす貴重な場でした。今、一般社団法人を立ち上げ「空き家を再生して住まいや居場所」に困っている人に提供する「事業」に取り組んでいます

空き家を再生して 住まいや居場所に 困っている人に 提供する



夢追塾12期生
伊藤 宏夫さん

留学生との交流を深めるプロジェクトを立ち上げ
専門学校で留学生を指導していた経験から、留学生にとっても住み良いまちにしたい思いがありました。「愛しとるっちゃ北九州」チームでは留学生と市民の交流の場を提供しています。